組み立て

【ポンプの準備】

エアーゲージを INFLATE 側にセットし、その先にホースを付けてご使用ください。

【本体とフロアーの準備】

センター DS フロアー（以下フロアー）を広げて、フットレストを取り付けます。（右ページを参照）

フィンを使用する場合は、膨らませる前に取り付けてください。（右ページを参照）

本体を広げて前後を確認してください。フロアーを中に敷き込みながら、前後のフロアーベルトにフロアーを差し込みます。

両サイドのチューブとフロアーのバルブのキャップを開け、

逆止弁パーツが上がっている（閉まっている）ことを確認します。

下がった状態で「開」　押しながら回す　上がった状態で「閉」

＊空気の注入は「閉」の状態で行います。

＊逆止弁パーツが下がったままだと、ホースを外す際に空気が抜けてしまうのでご注意ください。

最初にフロアーのバルブにポンプのホースの先を差込み、時計回りに回して固定します。

空気はフロアー、両サイドの 3 箇所を順番に 3 回以上に分けて入れるとバランス良く仕上がります。

【給気 1 巡目】

フロアー、両サイドのチューブの順に空気を入れて下さい。

3 箇所とも 30%くらい膨らませたところで以下を確認してください。

1）フロアーが中央にきているか。

2）糸で結ばれているバルブのキャップが本体とフロアーの間に挟まっていないか。

キャップが挟まると、後から引き出すことができません。破損の原因になるので、挟まっていたら空気を抜いて引き出してください。

【給気 2 巡目】

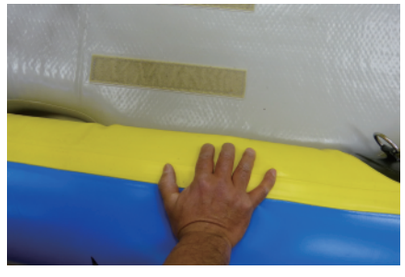
更に各箇所に空気を入れ、60% くらいまで膨らませたら、フロアーをチューブの下側に入れ込みます。

1）フロアーを本体底面に密着させるように、下に押さえながら、チューブ側面を上に引き上げて下さい。

内側の D- リングを引き上げるとやり易いです。
D- リングの無い部分は , フロアーを下に押さえながら
チューブの側面を手のひらで引き上げてください。

2）フロアーが本体の中央、チューブが左右均等になっていることをご確認ください。

【給気 3 巡目以降】



各箇所を膨らませて形を仕上げます。

両サイドのチューブは左右均等に空気を入れ、エアゲージの目盛りで **3PSI** 程度、
本体のシワがなくなり、手で押して硬くなったと感じるくらいに入れてください。

本体に 3PSI 以上は入れないで下さい。バーストや空気漏れの原因となります。
フロアーは 7PSI くらいが適正圧力です。（5PSI ～ MAX：9PSI まで可）

空気を入れ終わったらバルブキャップを閉じ、バルブ内への水の浸入や砂などの異物の進入を防いでください。

エアゲージは空気を入れている動作の時のみ目盛りが動きます。一番大きく振れた値がその時点での空気圧です。
空気圧を確認し、手で押さえてみて硬さを覚ておくと次回のインフレーション時やエアー漏れの発見などに役立ちます。

【シートの取り付け】

シートを希望する位置に置いてベルクロで仮押さえしてから、
カヤック本体内側の D リングにシートのカラビナフック 4 箇所を掛け、
パドラーに合うよう背もたれのテンション（角度）を調節してください。
(シートのカラビナフック取り付け位置は右の写真を参照してください。)
二人乗りを一人で使用する場合はシートを中央にセットしてください。

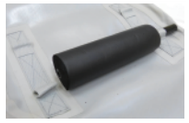
シートベルトフック取り付け位置

サイストラップ (別売) 取り付け位置

装備について

【フットレスト】

足裏で踏ん張る時に使います。センターの芯を動かして、フロアーのスリーブに差し込んでセットして下さい。
フロアーには 2 箇所のスリーブがあるので、パドラーの足の長さに合った場所にセットしてください。



初めのうちは、センター芯が固くて動きにくいことがありますのでご留意ください。
取り付け後の芯は、左右の飛び出しを同じくらいにしてください。
空気を入れてからの移動はできません。収納時は、セットしたままでも畳めます。

【フィン】

マーシャス・ダッキーを湖などの静水域で使用する際には、フィンを取り付けることにより直進性を向上させることができます。

先に空気を入れてしまうと、フィンが付けられなくなります。フィンを使用する場合は空気を入れる前にセットしてください。
急流や浅い川ではフィンは使用しないでください。
川下りの際には、フィンが折れやすいので使用には十分注意してください。

フィンの取り付け方

フィンの面積の大きい方が後ろになるように取り付けます。
フィンベースに片側のフックを引っ掛けて本体生地を寄せながら反対側のフィンのフックをかけます。
空気を入れ、本体に張りが出るとフィンが固定され抜けなくなります。しっかりとセットされていることを確認してください。

前方

後方

【バルブ】

バルブは、両サイドのチューブ後ろ側と、センター DS フロアーの後ろ側の 3 箇所にあります。キャップをネジって開けたら、
空気を入れる際には、黄色いギザギザの付いた逆止弁パーツを押し込んで、反時計回りに回して、逆止弁が持ち上がった状態にします。
空気を抜く際には、弁を押し込むと抜けます。指で押さえながら時計回りに回すと固定され、逆止弁が開いた状態になります。

バルブ
レンチ

バルブ周りの空気漏れは、バルブが緩んでいたり、内側のゴム製の O リングがねじれて挟まったり、
センター DS フロアーの生地の糸をバルブの内側に挟み込んでしまったりしたことが原因となります。
このような時にはリペアキットに入っているバルブレンチでバルブをしっかり閉めなおすか、バルブのオス、
メスを一旦外し、挟まった O リングや繊維を外して正しく閉めなおすと空気漏れを解消することができます。
バルブを外す際には、バルブのメス側が本体内部に落ちないように反対側から手で押さえて外してください。
閉める際はメス側を底の方から持ち上げて、オス側を時計回りに回して締め込み、最後はバルブレンチでしっかりと閉めてください。

注意点

○空気が少ないと艇本体の剛性が落ち、漕行するのに危険な状態になることがあります。適正圧力でご使用ください。
○左右の空気量が違うと真っ直ぐ進まないことがあります。空気量は左右均等にしてください。
○空気の入れすぎはバースト（船体破裂）や空気漏れの原因になりますのでおやめください。
○破損の原因になりますので、岩の上などで両サイドのチューブの上に乗ったり腰掛けたりしないでください。
○晴天時、陸上に放置すると太陽光で空気が膨張し、バーストの原因になります。エアーを少し抜いてバーストを防いでください。
再度乗艇するときには空気を入れなおしてください。
○気温が高く水温が低い場合、本体を水に浮かべると中の空気が収縮することがあります。必要に応じて空気を入れ足してください。